

家庭教育力の強化を図ろう

～子どもたちの健やかな成長をともに願う P T A 活動～

豊橋市立北部中学校 P T A

1 学区及び学校の概要

本校は、豊橋市の最北部に位置し、一級河川の豊川と豊川の洪水被害を軽減するために建設された豊川放水路に挟まれた自然豊かな地域である。また、校区内には国道 1 号線が走り、その沿線には商業施設や工場も多くある。今年で開校 7 5 年目を迎え、卒業生には、東京オリンピックで銀メダリストの高田真希選手、プロゴルファーの米山みどり選手がいる。令和 4 年度の生徒数は 3 6 7 名、1 4 学級（内特別支援学級 3）の中規模校である。

2 研究のねらい

子どもたちの健やかな成長は、学校、家庭、地域のよい連携によって育まれていく。また、現代の子どもたちをとりまく環境はここ数年で大きく変化をしている。そこで、学校教育だけでなく、地域を含めた家庭においても、子どもたちの教育に携わっていくことが必要になっている。そこで、コロナ禍においても可能な活動や、どのようにすることが家庭教育力の強化につながるのかを考えていきたい。

3 研究の仮説

保護者が参加できる P T A 活動の充実を図り、子どもたちの様子を知ることができれば、家庭内で、親として子どもに向き合う時間が増え、家庭教育力の強化につながっていくであろう。

4 研究の方法

コロナ禍ではあるが、子どもとのふれ合いをよりいっそう深めることができる活動、保護者として学ぶことの自覚を高め、家庭教育の充実が図れるような活動を P T A 活動に位置づける。

5 研究の実践

（1）あいさつ運動

年間において数回、あいさつ運動を実施している。以前は、P T A 役員だけの活動であったが、現在は、全会員に呼びかけ、希望者を含めた活動になってきた。こちらからの「おはようございます」の挨拶に、登校する子どもたちは、さまざまな反応をしてくれた。大きな声には、こちらが元気をもらったり、逆に、なにかあったのかなと心配したりする「おはようございます」もあった。このように、こちらから、「おはようございます」と挨拶するだけでなく、朝の様子を知る経験となった。また、参加者の感想を学校のホームページで紹介してもらえるように依頼した。



(2) 資源回収

6月と12月の土曜日の午後に行われるこの活動に、地域単位で子どもたちの活動を支援している。主な内容は、集められた新聞や段ボールを最終集積場まで運ぶことである。車両を提供し、親子で一緒に活動する姿や、子どもたちが地域の保護者へ感謝の気持ちをあらわす場面が多く見られた。参加者にとっては、子どもたちの違った面を知る機会になったり、近所の子どもたちとふれ合うことができたりした。このような感想は、PTA新聞「かわきた」で取り上げたり、ホームページへの掲載を依頼したりしている。このように活動報告だけに終わらず、参加したからこそ感じたことを共有することができた。



(3) オンライン研修会

コロナ禍前は希望者が校内に集まり、いろいろな研修会を行っていた。しかし、ここ数年、PTAの研修会は行っていなかった。本年度は10月にZoomによるオンライン研修会を計画した。これは、本家庭のWi-Fi環境が99%整っていることもあり、今の時代に合った方法であると考え、実施した。内容については、「性教育」を取り上げた。これは、子どもの性教育の授業をした先生からの話題提供がきっかけとなり、保護者にも性教育は必要であるということから、研修会を計画した。演題は、「保護者として知っておきたい思春期の心とからだ」、講師は、「産婦人科専門医 宮本由記先生」にお願いした。Zoomにより、家庭からの参加は約50名ほどであった。参加者からの感想「性についての話を娘にしないといけないと思っていましたが、どう話せば良いかも分からず先伸ばしにしていました。今回のお話を参考にし、娘と性について話し合いたいと思いました。」からも、大切なことを話し出すきっかけは家庭教育力の強化につながるであろう。



6 研究の考察

参加した会員の感想から、これらの活動は子どもたちを知るよい機会になったと思う。考え方、見方、接し方がよくなることは、家庭教育力の強化につながることを期待される。

7 成果と今後の課題

令和2年より、世界中がコロナウィルスによる大きな変化を受け、本校のPTA活動も例年どおりではなくなった。中止や制限をチャンスと捉え、従来の活動を見直してきた。本年度のオンライン研修会は、どのように我が子に性の話をするのかわからなかったり、無関心であったりする現実のもとでは有効であったと考える。保護者の勉強の機会を設定することで、参加者は、今までとは違う気持ちで子どもたちと接することができた。しかし、必要とされる内容は多岐に渡り、今回の内容が全ての保護者が必要としているわけではない。そこで、家庭での教育力が低下していると思う内容を整理し、計画的に研修の場を提供することが課題である。また、他の活動においても、参加する数を増やしたり、参加した感想などを効果的に共有したりしていきたい。